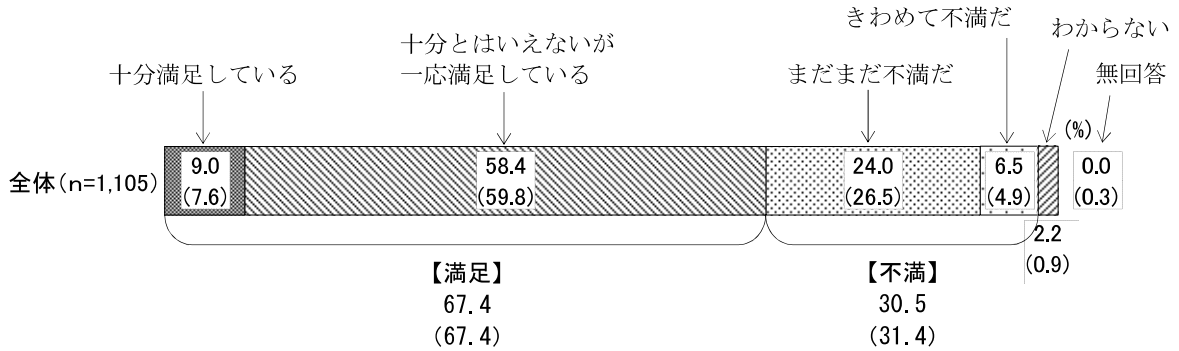


I 生活意識

1. 暮らし向きへの満足度

—【満足】が約7割—

問1 あなたは、現在の暮らし向きについてどの程度満足していますか。次の中から、一番近いものを1つだけ選んでください。



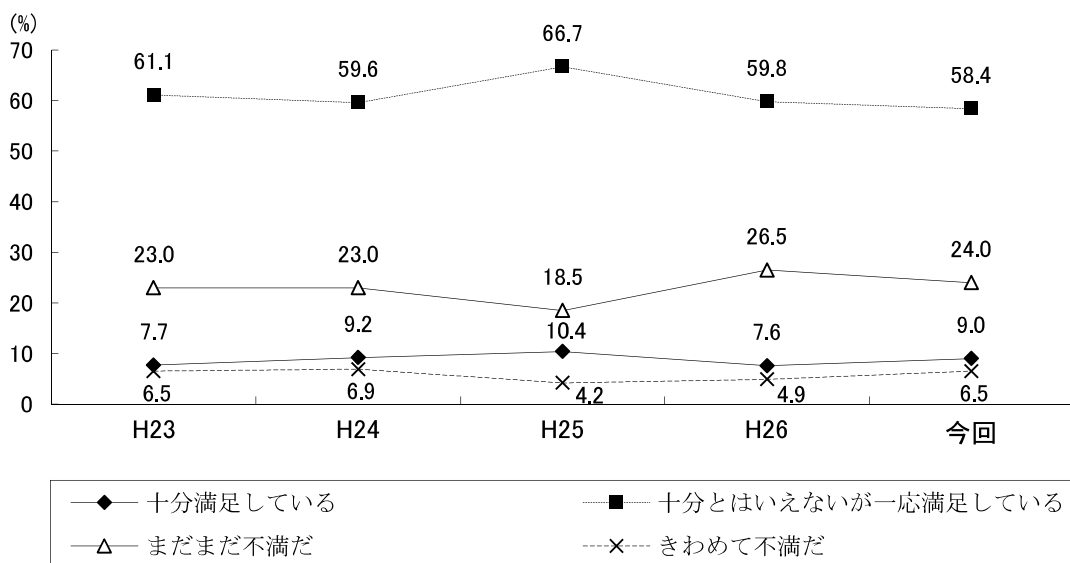
※()内の数値は、平成26年の調査結果

暮らし向きへの満足度としては、「十分満足している」(9.0%)と「十分とはいえないが一応満足している」(58.4%)を合わせた【満足】(67.4%)が約7割となっている。一方、「まだまだ不満だ」(24.0%)と「きわめて不満だ」(6.5%)を合わせた【不満】(30.5%)は約3割となっている。

—特に大きな増減はない—

前回調査(昨年)と比べると、特に大きな差はみられない。

図I 1-1 暮らし向きへの満足度(時系列)



ー県北で【満足】が7割超ー

地域別でみると，【満足】は，県北（71.4％）で7割を超えて最も高くなっている。

ー女性で【満足】が男性よりも約5ポイント高いー

性別でみると，【満足】は，女性（69.7％）が男性（64.5％）よりも約5ポイント高くなっている。

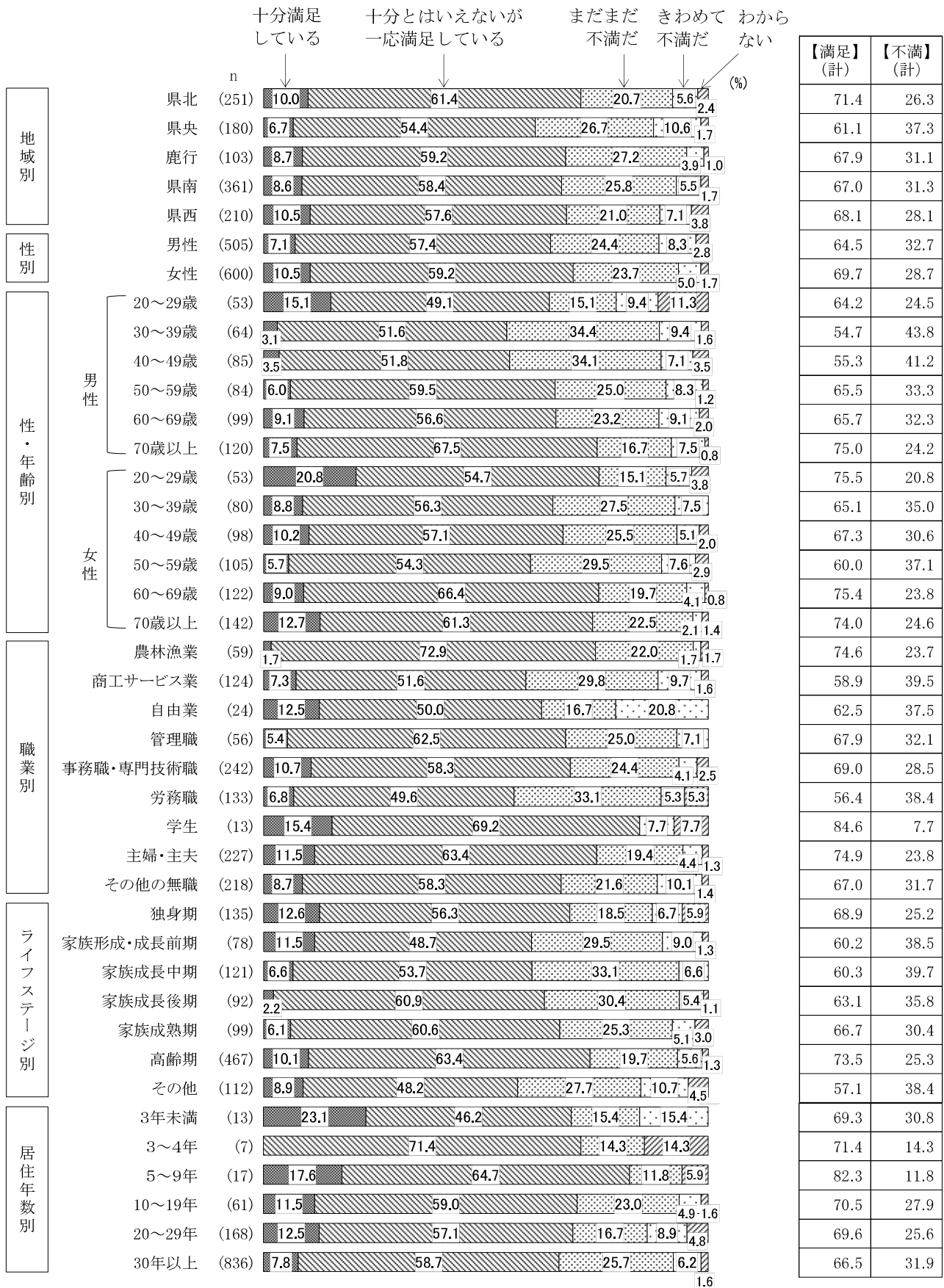
ー男性の70歳以上，女性の20代，60代，70歳以上で【満足】が7割台半ばー

性・年齢別でみると，【満足】は，男性の70歳以上（75.0％），女性の20代（75.5％），60代（75.4％），70歳以上（74.0％）で7割台半ばと高くなっている。

ー農林漁業と主婦・主夫で【満足】が7割台半ばー

職業別でみると，【満足】は，農林漁業（74.6％）と主婦・主夫（74.9％）で7割台半ばと高くなっている。

図 I 1-2 暮らし向きの満足度
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



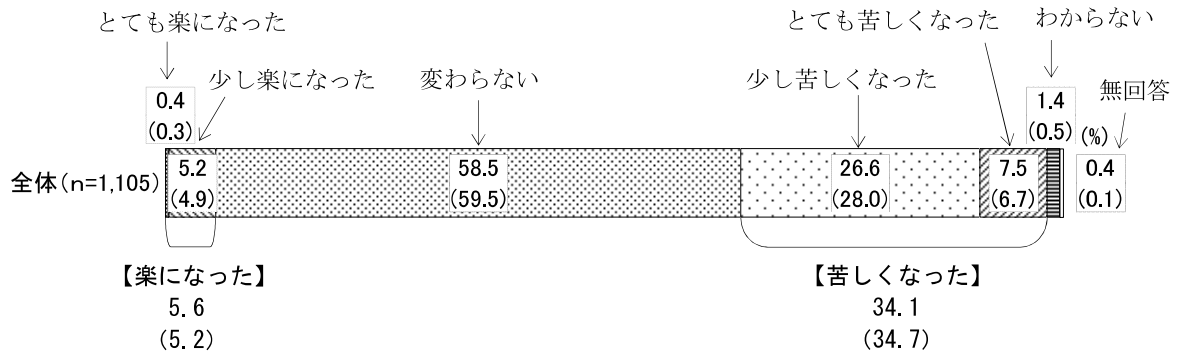
(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

2. 暮らし向きの変化

(1) 暮らし向きの変化

—「変わらない」が約6割—

問2 暮らし向きは、昨年のごころに比べて楽になりましたか。それとも苦しくなりましたか。次の中から、一番近いものを1つだけ選んでください。



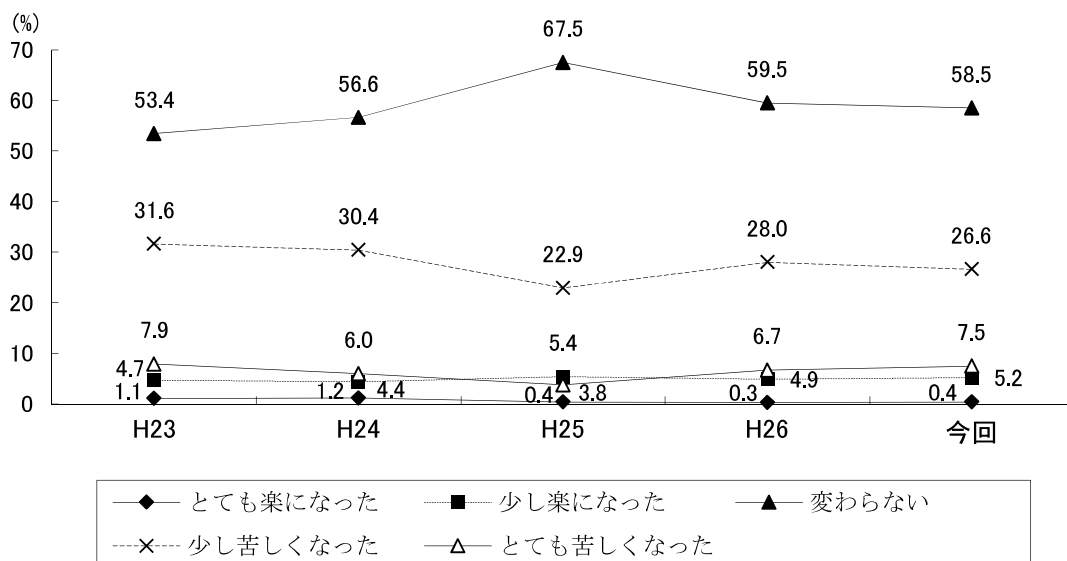
※()内の数値は、平成26年の調査結果

暮らし向きの変化としては、「変わらない」(58.5%)が約6割となっている。一方、「少し苦しくなった」(26.6%)と「とても苦しくなった」(7.5%)を合わせた【苦しくなった】(34.1%)は3割台半ばとなっている。

—特に大きな増減はない—

前回調査(昨年)と比べると、特に大きな差はみられない。

図I 2-1 暮らし向きの変化(時系列)



一県央で【苦しくなった】が約4割一

地域別でみると，【苦しくなった】は，県央（38.3%）で約4割と最も高くなっている。

一男性の40代と女性の50代で【苦しくなった】が4割超一

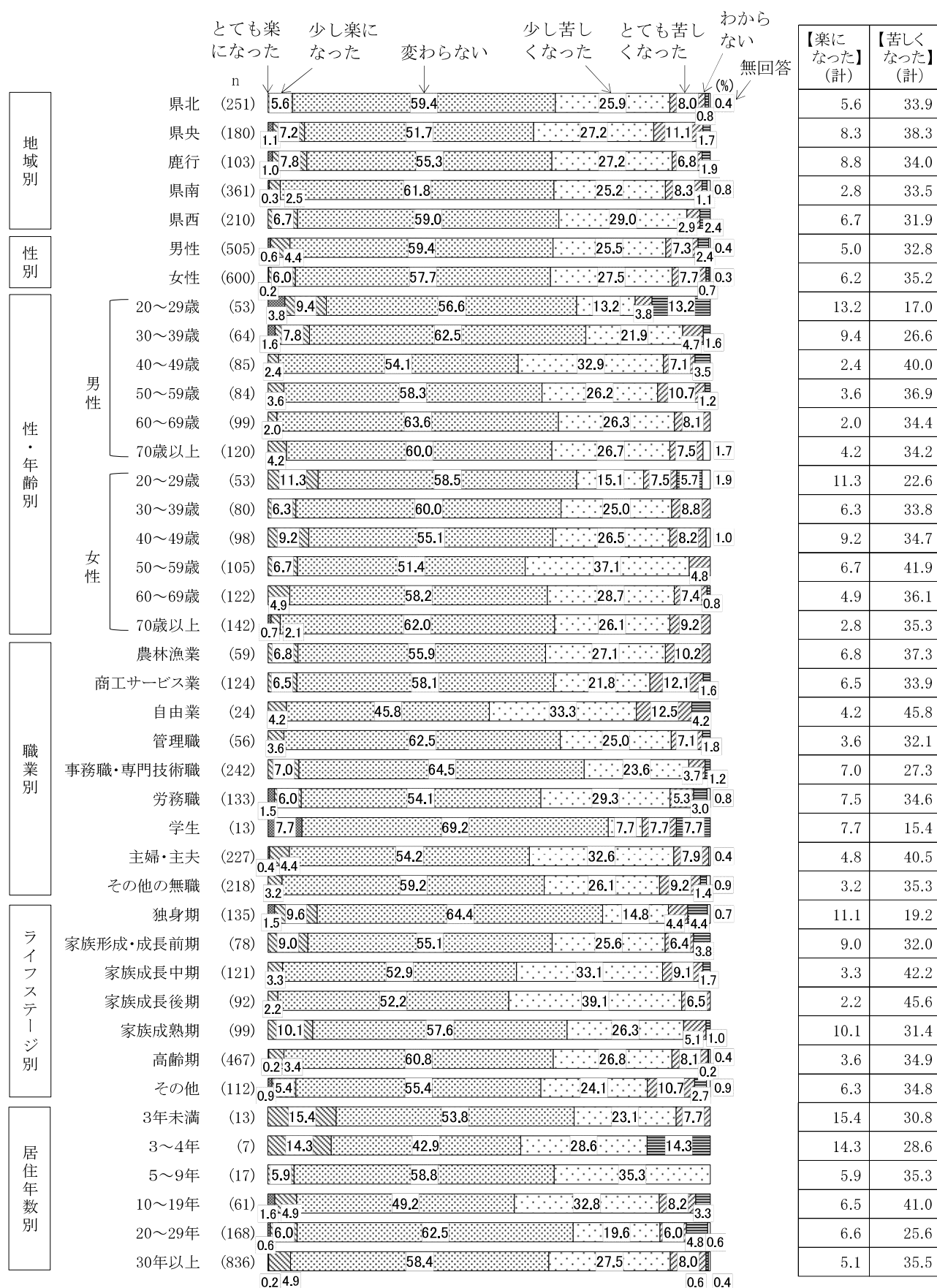
性・年齢別でみると，【苦しくなった】は，男性の40代（40.0%）と女性の50代（41.9%）で4割を超えて高くなっている。

一主婦・主夫で【苦しくなった】が約4割一

職業別でみると，【苦しくなった】は，主婦・主夫（40.5%）で約4割と最も高くなっている。

図 I 2-2 暮らし向きの変化

(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



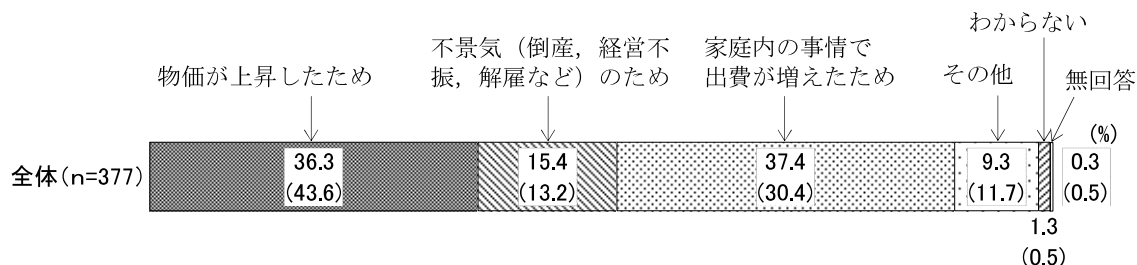
(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

(2) 苦しくなった理由

－「家庭内の事情で出費が増えたため」が約4割－

(問2で「4 少し苦しくなった」, 「5 とても苦しくなった」と回答した方のみ)

問2-1 苦しくなったのは、主にどのようなことからですか。次の中から、最も大きな原因を1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成26年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】と回答した方に、その理由を聞いたところ、「家庭内の事情で出費が増えたため」(37.4%)が約4割と最も高く、次いで、「物価が上昇したため」(36.3%)が3割台半ばで続いている。

－「家庭内の事情で出費が増えたため」が7ポイント増加－

前回調査(昨年)と比べると、「家庭内の事情で出費が増えたため」が7ポイント増加している。一方、「物価が上昇したため」が約7ポイント減少している。

－県南で「物価が上昇したため」が4割台半ば－

地域別でみると、「物価が上昇したため」は、県南(46.3%)で4割台半ばと最も高くなっている。

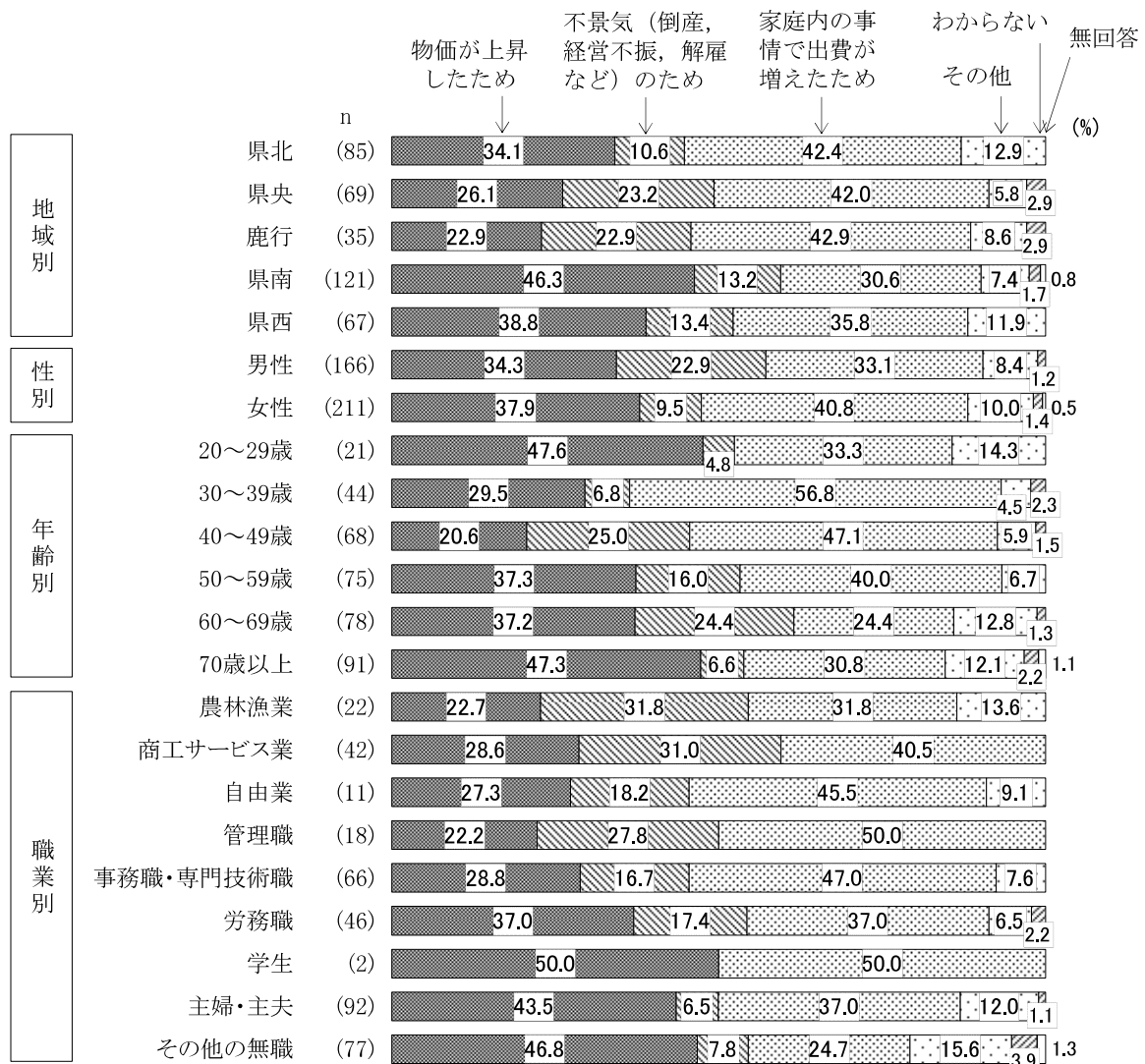
－男性で「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」が女性よりも約13ポイント高い－

性別でみると、「不景気(倒産, 経営不振, 解雇など)のため」は、男性(22.9%)が女性(9.5%)よりも約13ポイント高くなっている。一方、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、女性(40.8%)が男性(33.1%)よりも約8ポイント高くなっている。

－30代で「家庭内の事情で出費が増えたため」が5割台半ば－

年齢別でみると、「家庭内の事情で出費が増えたため」は、30代(56.8%)で5割台半ばと最も高く、次いで40代(47.1%)で約5割と高くなっている。

図I 2-1-1 苦しくなった理由
(地域別, 性別, 年齢別, 職業別)



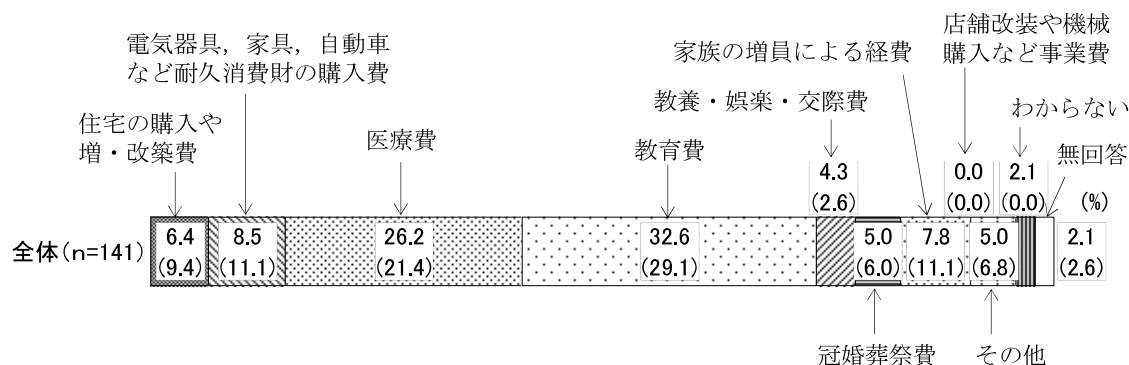
(注) 回答者数が30人未満の層では分析ではふれていない場合がある。

(3) 増えた経費

－「教育費」が3割超－

(問2-1で「3 家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方のみ)

問2-1-1 家庭内の事情で出費が増えたということですが、どのような経費が最も増えましたか。次の中から、あてはまるものを1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成26年の調査結果

暮らし向きが【苦しくなった】理由を、「家庭内の事情で出費が増えたため」と回答した方に、増えた経費を聞いたところ、「教育費」(32.6%)が3割を超えて最も高く、次いで、「医療費」(26.2%)が2割台半ばで続いている。

－「医療費」が約5ポイント増加－

前回調査(昨年)と比べると、「医療費」が約5ポイント増加している。